

GLA Course Description

Note:

- Courses marked with "*" are compulsory.

Capstone Studies

(1) Research Seminar I <4 credits>

This course assists the students to review what they learn in the previous years and explore the best research theme and plan for their original thesis writing. Throughout the classes of this course, the lecturer will support the students to design their graduation researches, based upon individual combinations of what they learn from the three streams of Global Liberal Arts, viz. Cosmopolitan, Civilisation, and Innovation. The principal aim of this course concerns the students' spontaneous discovery and thematic fixation in research to let them place their milestones of achievement in undergraduate study. A unit of a few faculty members in specific research disciplines will be attached to each stream, and this scheme will provide the students with ideally customised supervision.

この科目では、受講生がそれまでの自らの学びを振り返って、もっともふさわしい研究テーマを探求し、論文執筆の計画を策定する。授業全体を通じて、授業担当者は、グローバル教養学の三つの柱である Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies の三つの科目群の学びにおいて受講者のそれぞれが学んできたことに応じて卒業研究の設計を支援する。本科目の主目的は、学位課程の能動的な学びの到達点として、学生が自発的かつ一貫した姿勢で研究に取り組むことにある。

【分担に関する補足】

本科目は、主に Cosmopolitan Studies の学びをベースに論文執筆を行う A クラス、Civilization Studies の学びをベースに論文執筆を行う B クラス、Innovation Studies の学びをベースに論文執筆を行う C クラスの三クラス編成で開講される（なお、特に C クラスにおいては、卒業制作と解説論文の組み合わせによって卒業研究とすることがある）。A クラスおよび B クラスは五名、C クラスは四名の担当教員が配置される。各クラスの担当教員の分担は以下のとおりである。

A クラス

受講生は 5 人の教員に分属して、一週二回全 15 週 30 回の授業のうち、一方では一週一回の論文指導を受けつつ、他方では並行して 3 週 3 回を 1 クールとする「論文解析セミナー（Anatomy of Research Paper）」を計 5 クール受講する。ただし論文指導の第 4～7 週、第 10～15 週は 5 人の教員全員でクラス全体によるリサーチ・コロキウムを行い、リサーチの進捗についてクラス全体で討議する。「論文解析セミナー」は担当教員が専門

分野の最新論文を取り上げて、その論文がどのように書かれたかを、学説史や方法論、論文作法の実際にわたり、再構成して解説する授業である。5人の担当教員は、各個に毎週の論文指導を行いつつ、「論文解析セミナー」を1クールずつ担当する。

B クラス

受講生は5人の教員に分属して、一週二回全15週30回の授業のうち、一方では一週一回の論文指導を受けつつ、他方では並行して3週3回を1クールとする「論文解析セミナー（Anatomy of Research Paper）」を計5クール受講する。ただし論文指導の第4～7週、第10～15週は5人の教員全員でクラス全体によるリサーチ・コロキウムを行い、リサーチの進捗についてクラス全体で討議する。「論文解析セミナー」は担当教員が専門分野の最新論文を取り上げて、その論文がどのように書かれたかを、学説史や方法論、論文作法の実際にわたり、再構成して解説する授業である。5人の担当教員は、各個に毎週の論文指導を行いつつ、「論文解析セミナー」を1クールずつ担当する。

C クラス

受講生は4人の教員に分属して、一週二回全15週30回の授業のうち、一方では一週一回の論文指導（ないしは卒業制作指導）を受けつつ、他方では並行して3週3回を1クールとする「論文解析セミナー（Anatomy of Research Paper）」を計4クール受講する。ただし論文指導の第4～6週、第12～15週、および論文解析セミナーの第一クール終了後の一週と第四クール終了後の二週は4人の教員全員でクラス全体によるリサーチ・コロキウムを行い、リサーチの進捗についてクラス全体で討議する。「論文解析セミナー」は担当教員が専門分野の最新論文を取り上げて、その論文がどのように書かれたかを、学説史や方法論、論文作法の実際にわたり、再構成して解説する授業である。4人の担当教員は、各個に毎週の論文指導（ないしは卒業制作指導）を行いつつ、「論文解析セミナー」を1クールずつ担当する。

(2) Research Seminar II <4 credits>

Whilst Seminar I is concerned with the thematic perspective, this course assists the students to review their academic disciplines in research methodologies. Throughout the classes of this course, the lecturer will support the students to design the logical contexts and forms of analysis, based on original combinations of what they learn from the research disciplines in the three streams of Global Liberal Arts, viz. Cosmopolitan, Civilisation, and Innovation. The principal aim of this course concerns the students' spontaneous discovery of methodologies in research to complete their undergraduate study. A unit of a few faculty members in specific research disciplines will be attached to each stream, and this scheme will provide the students with ideally customised supervision.

Research Seminar I では主題にかかわる指導を行うのに対して、本科目では受講者のディシプリンをふまえて

研究の方法に関する支援を行う。授業全体を通じて、授業担当者は、グローバル教養学の三つの柱である Cosmopolitan Studies, Civilization Studies, Innovation Studies の三つの科目群の学びにおいて受講者のそれぞれが学んできたことに応じて研究の論理的文脈や分析の形態の設計を支援する。本科目の主目的は、学位課程の能動的な学びの到達点として、学生が自発的かつ方法論的に構造化された姿勢で研究に取り組むことにある。

【分担に関する補足】

本科目は、主に Cosmopolitan Studies の学びをベースに論文執筆を行う A クラス、Civilization Studies の学びをベースに論文執筆を行う B クラス、Innovation Studies の学びをベースに論文執筆を行う C クラスの三クラス編成で開講される（なお、特に C クラスにおいては、卒業制作と解説論文の組み合わせによって卒業研究とすることがありうる）。A クラスおよび B クラスは五名、C クラスは四名の担当教員が配置される。各クラスの担当教員の分担は以下のとおりである。

A クラス

受講生は 5 人の教員に分属して、一週二回全 15 週 30 回の授業のうち、一方では一週一回の論文指導を受けつつ、他方では並行して 3 週 3 回を 1 クールとする「論文解析セミナー（Anatomy of Research Paper）」を計 5 クール受講する。ただし論文指導の第 4～7 週、第 10～15 週は 5 人の教員全員でクラス全体によるリサーチ・コロキウムを行い、リサーチの進捗についてクラス全体で討議する。「論文解析セミナー」は担当教員が専門分野の最新論文を取り上げて、その論文がどのように書かれたかを、学説史や方法論、論文作法の実際にわたり、再構成して解説する授業である。5 人の担当教員は、各個に毎週の論文指導を行いつつ、「論文解析セミナー」を 1 クールずつ担当する。

B クラス

受講生は 5 人の教員に分属して、一週二回全 15 週 30 回の授業のうち、一方では一週一回の論文指導を受けつつ、他方では並行して 3 週 3 回を 1 クールとする「論文解析セミナー（Anatomy of Research Paper）」を計 5 クール受講する。ただし論文指導の第 4～7 週、第 10～15 週は 5 人の教員全員でクラス全体によるリサーチ・コロキウムを行い、リサーチの進捗についてクラス全体で討議する。「論文解析セミナー」は担当教員が専門分野の最新論文を取り上げて、その論文がどのように書かれたかを、学説史や方法論、論文作法の実際にわたり、再構成して解説する授業である。5 人の担当教員は、各個に毎週の論文指導を行いつつ、「論文解析セミナー」を 1 クールずつ担当する。

C クラス

受講生は 4 人の教員に分属して、一週二回全 15 週 30 回の授業のうち、一方では一週一回の論文指導（ないしは卒業制作指導）を受けつつ、他方では並行して 3 週 3 回を 1 クールとする「論文解析セミナー（Anatomy of Research Paper）」を計 4 クール受講する。ただし論文指導の第 4～6 週、第 12～15 週、および論文解析セミナーの第一クール終了後の一週と第四クール終了後の二週は 4 人の教員全員でクラス全体

によるリサーチ・コロキウムを行い、リサーチの進捗についてクラス全体で討議する。「論文解析セミナー」は担当教員が専門分野の最新論文を取り上げて、その論文がどのように書かれたかを、学説史や方法論、論文作法の実際にわたり、再構成して解説する授業である。4人の担当教員は、各個に毎週の論文指導（ないしは卒業制作指導）を行いつつ、「論文解析セミナー」を1クールずつ担当する。

(3) Thesis <4 credits>

This course attempts to accomplish the following twofold aims: consolidation of the students' learning and academic disciplines, and support the students to begin and finish their graduation thesis writing. Another essential role of this course exists in assisting the motivation of the students and their commitment to thesis writing. In tandem with their intellectual challenge, the students will face the first challenging experience of being mentally independent and consistent to achieve individual goals. In collaboration with the lecturer, the faculty members in the relevant field of research specialties will cooperate to accomplish the aim of this course.

本科目は、学生の学びとディシプリンを確固たるものとする、そして卒業論文執筆の着手から完成までの過程を支援することという二重の目的を持つ。くわえて本科目は、論文の執筆過程を通じて、学生が執筆意欲を維持できるように支援するという役割も持つ。卒業研究それ自体の知的試練と並行して、学生は精神的に自立し、それぞれの目標の実現を貫くという試練にも直面する。授業担当者との協働を通じて、学部教員の全体が本科目の目的の実現のために協力して指導に当たる。

(4) Capstone Studies in Governance Studies <4 credits>

This capstone course is designed for the students, particularly interested in the structure and changes of political orders and regimes under globalisation from the standpoint of long-term historical context. This course will deal with the modern issues on governance from philosophical, cultural, and technical perspectives, and the students will learn explore their own research themes and cases, centred on the modern governance. In tandem with usual lectures, the students will make research reports, debate their findings, and spontaneously form their own learning communities to practice active learning.

この科目は、特に世界の長期的な歴史を文脈として、グローバル化にともなう秩序や統治のあり方の変容に主たる関心をもって学んできた学生を対象として、ガバナンスに関する現代的イシューについて、統治の哲学的、文化的、技術的基礎にまでさかのぼりつつ、具体的な事例に基づいて学び、学生が自ら設定する研究課題を追究する。授業は講義と並行して、学生による研究報告とそれにもとづく討議を中心にすすめ、学びのコミュニティを形成

して学生の能動的な学びを実現する。

(5) Capstone Studies in Normative Perspective to Globalization <4 credits>

This capstone course is designed for the students, particularly interested in the dynamic socio-cultural diversity in globalization. The students will learn explore their own research themes and cases, centred on the consequent and interrelated global dynamism in politics, societies, and cultures, driven by the recent development of Asia. In parallel with usual lectures, the students will make research reports, debate their findings, and spontaneously form their own learning communities to practice active learning.

この科目は、特にグローバル化する世界における、文化や社会の多様性に主たる関心をもって学んできた学生を対象として、特に近年のアジアの発展によって引き起こされた政治的、社会的、文化的ダイナミズムに関する具体的事例に基づいて学びつつ、学生が自ら設定する研究課題を追究する。授業は講義と並行して、学生による研究報告とそれにもとづく討議を中心にすすめ、学びのコミュニティを形成して学生の能動的な学びを実現する。

(6) Capstone Studies in Development and Social Change <4 credits>

This capstone course is designed for the students, particularly interested in new value and new social capital creation through management of innovation and technologies analysis from global perspective. The students will explore their own research themes and cases, centred on their visions, insights, and proposals of the new social values in global necessity. In tandem with usual lectures, the students will make research reports, debate their findings, and spontaneously form their own learning communities to practice active learning.

この科目は、特に社会と様々な技術との関わりに注目しつつ、社会に新たな価値を実現し、新しい社会のかたちを実現しようとする営みに関心を持つ学生を対象として、広い意味での開発にかかわるさまざまなイシューについて具体的事例に基づいて学びつつ、学生が自ら設定する研究課題を追究する。授業は講義と並行して、学生による研究報告とそれにもとづく討議を中心にすすめ、学びのコミュニティを形成して学生の能動的な学びを実現する。

(7) Capstone Studies in Geohistorical Perspective to Globalization <4 credits>

This capstone course is designed for the students, particularly interested in the dynamic socio-cultural diversity in globalization. The students will learn explore their own research themes and cases, centered on the consequent and interrelated global

dynamism in politics, societies, and cultures, driven by the recent development of Asia. Along with usual lectures, the students will make research reports, debate their findings, and spontaneously form their own learning communities to practice active learning.

この科目は、特にグローバル化する世界における、文化や社会の多様性に主たる関心をもって学んできた学生を対象として、特に近年のアジアの発展によって引き起こされた政治的、社会的、文化的ダイナミズムに関する具体的事例に基づいて学びつつ、学生が自ら設定する研究課題を追究する。授業は講義と並行して、学生による研究報告とそれにもとづく討議を中心にすすめ、学びのコミュニティを形成して学生の能動的な学びを実現する。